

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。

# つ の ぶ え



社会福祉法人  
**小羊学園**

〒433-8105  
静岡県浜松市北区三方原町 2709-12  
電話：053-584-3337 FAX：053-585-8488  
E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp  
H.P http://www.kohitsuji.or.jp/  
発行人：稲松 義人  
印刷所：アド・アール株式会社  
定 価：一部 30円



2016年10月20日  
第**401**号

## 福祉の担い手

～welcome to 小羊学園～

支援センターわかぎ

施設長 古橋 誠

先日、2017年度小羊学園新卒採用試験が行われ、福祉の志を抱いた若者と面接で話をする機会を与えられました。どの学生も自らの人生に大きくかわる重要な日ですので、緊張の面持ちを隠せません。ましてや理事長はじめ法人役員が列挙する中で面接するわけですから、さぞかし緊張したことでしょう。

面接内で何人かの学生に、志望動機を伺いました。多くの職業がある中で、社会福祉の道を選択し、その中でも障がい児・者福祉、そして小羊学園で働きたいという気持ちを持つて下さった思いを確認するためです。学生個々によって志望動機はもろろん違います。純粋な気持ちを表してくれた学生ばかりで、嬉しくも頼もしくも思いました。この純粋な気持ちで就職してからもずっと続いてくれることを切に願うばかりです。

少しばかり日本の社会情勢を眺めてみたいと思います。平成27年度厚生労働白書によると、2014年日本の総人口は1億2078万人、人口ピークであった2008年と比較すると100万人の人口減です。0歳から14

歳が総人口に占める割合は12.8%となり、年々人口割合は減少傾向にあります。将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所試算)によると2060年には9.1%にまで減少すると予測されています。一方で65歳以上の人口割合は、26%となり4人に1人が高齢者で、2060年度に40%を超える割合になると予測しています。ご存知の通り日本は世界一の高齢化社会です。2位のイタリヤですら22.3%、アメリカが14.8%、お隣の韓国が13.1%と諸外国の高齢化率と比較してもその割合は突出しているのです。

人口減少および少子・高齢化は労働人口と比例の関係にあります。就業者数の減少による労働投入や消費の減少、地域経済社会の縮小や都市機能の低下、法人税・所得税などの税収減による社会保障費の捻出や財政健全化への影響など、日本の将来を危惧することばかりです。政府関係者が少子化対策に注力し、かつ子育て世代の労働者を創出するために子育てを応援する背景には、こんな背景があるのです。

話題を小羊学園のことに戻します。つばさ静岡の開設や児童・成人の通所事業の拡大が行われていた10年前ごろは、20人を超える採用の時期もありました。近年は新卒採用試験の応募者が減少しています。社会福祉や介護福祉を目指す養成校(大学・専門学校)への入

学者自体が減少していることや、福祉職を希望しても、相談援助やコーディネーターのような職種を希望し、現場での実務を嫌う傾向もあります。いわゆる4Kと呼ばれる福祉現場の仕事はライフワーカーと考える次世代の若者が少ないのかもしれない。もっと華やかで夢のある職業を選択する気持ちもわかります。

小羊学園を利用される利用者の多くは重い障がいを抱え、周囲の支えを受けつつ暮らしている人たちです。私たちは時に涙、時に笑い、利用者の人生と共に歩んでいます。法人パンフレットの見開きにはサブタイトルとして「地域の中で障がい児・者のライフステージに沿った総合的な支援を目指して」と唄い、幼少期から高齢期に至るまで、私たちができ得る支援を進めています。そのためにはマンパワー＝福祉の担い手が大前提です。正直なところ、この仕事は業務的にはハードだと思えます。しかし、やりがいや達成感が得られ、彼らの純粋な人柄に触れ、喜びと癒しを分け与えてもらえる仕事でもあるのです。そこに小羊学園で働く職員のモチベーションがあると思うのです。この仕事がライフワークとして魅力あり夢ある仕事であることを若い世代にもっとアピールすることが経営者としての使命なのかもしれません。



## 小羊学園らしい

### 放課後支援って？

在宅で学童期を過ごす家庭にとつて、放課後等デイサービスの果たす役割は大きいものです。現在では浜松市内に50か所を超える事業所ができましたが、その中で小羊学園の事業者が果たす役割：これまでの実践について報告してもらいます。

#### 「ドルチェと放課後支援の原点」

ドルチェ 施設長 雨宮 寛

ドルチェの放課後支援は、特別支援学校前で30台ほどのお迎えの車列に並ぶことから始まります。何とも表現のし難い光景ですが、最近はこの特別支援学校でも同じような状況が見られるようです。待っている車に先生達が、子どもたちを連れてきてくださいますが、利用先が日によって違う場合もあり受け入れ事業所を捜すのも一苦労のようです。子どもを連れてきた先生達が右往左往する様子と次々にやってくる子ども達を合わせただしく車に乗せる事業所スタッフの様子は、おおよそ学校とは思えない光景です。

ドルチェは平成17年に開所した小羊学園初めての放課後支援事業所です。小羊学園としては、それ以前より特別支援学校の子どもたちを対象に、夏休みの夏期デイサービスやショートステイ等の支援を行っていました。こうした取り組みは、夏休みだけでなく日常的な放課後支援の広がりにつながっていきドルチェもその中で開設されました。当時は、現在の様な障がい児の放課後支援の制度は確立されておらず、浜松市単独の事業である浜松市心身障害児放課後等対策事業(年間補助額250万円)を利用して支援を行っていました。市内にドルチェを含め3ヶ所しか放課後支援を行う事業所がない状況で、一日定員10名の事業所に80名以上の児童が登録していました。それを年間の補助金が、現在の1ヶ月分程度と半分の支援員(3名)で支援を行っていました。

そんな時代をからすれば、最近の爆発的な事業所の増加と利用児童増加は、想像すらできなかった状況です。

ドルチェで放課後支援を始めて10年になりますが、子どもたちの放課後の居場所の必要性や家族支援の必要性は、当時と変わったのでしょうか。子どもたちや家族にとって、選択肢の幅が広がる回数もたくさん利用できる状況は、望ましいことのように思います。休みの日の利用や遅い時間までの預かり、家庭への送迎するなど、サービスの充実も同様で

す。家族のニーズに併せて利用ができることは、悪いことではないはずなのですが、あまりの極端な変わりように違和感を覚えてしまうのは私だけではないと思います。

元気に通ってくる子どもたちの様子は、今も昔も変わりありません。友達やスタッフと過ごす時間を目一杯楽しんでる様子です。

放課後支援の必要性は、個々の子供や家族それぞれに違います。それでも「お出かけや友達と遊ぶ機会が少ない子どもたちのために」「子どもの介助や行動の激しさに疲弊しているご家族の休息のために」「お仕事をしているご家族のために」そんな想いから始まったドルチェの原点を再認識する必要性があると感じている昨今の放課後事情です。



#### 「子どもたちの笑顔に囲まれて」

##### 在宅支援センター ぱびるす

主任 本宮 早奈映

「ただいま」「おかえりなさい」放課後になると、元気いっぱいの声が聞こえてくる「ぱびるす」は約7年前に、中区の北部にある高丘に設立されました。現在、放課後等デイサービス(定員10名)、日中一時支援、児童発達支援(定員20名)の事業を2階建ての建物で展開しています。

設立当時、私は相談支援事業所アグネスに所属しており、地域で生活している障がいを持つお子様や、成人の方や、そのご家族からの相談を受けさせていただいていました。その中で、お子様が小学校入学後、学校に併設されている放課後児童会に入会したくても、入会することができず、ご家族が非常に困っており、お子様の放課後の行き場所を求めている方々がいらっしゃいました。

相談員として、放課後児童会へ出向き、お子様の障がい特性やご家族が困っている状況のご理解を求め、働きかけを行いました。そのような状況が続く中、小羊学園として、今日の前で困っている方を支援する為に必要な事業を法人内で作りましようということになり「ぱびるす」が開所しました。

設立当初は、登録児童が80名を超え、



ご家庭からの希望に応えることができず、心苦しい調整をせざるをえない状況でしたが、近年「放課後等デイサービス」を提供する事業所が急速に増え、住まいの地域に近い事業所や、お子様に合った事業所を選択できるようになってきました。

現在、「ばびるす」では、平日については、近隣の学校4校と、特別支援学校2校に通っているお子様の受け入れを行っています。小学校1年生～中学3年生のお子様をお預かりする中で興味関心の幅が広く、2階の放課後スペースだけでは、遊びや活動に制限が出てしまう為、今年度より1階と2階にグループ分けをして過ごす日を設け、のびのびと遊べる空間を提供することを試みています。

学校生活の中だけでは出会うことがなかったかもしれないお子様同士が「ばびるす」で出会えたことを大切にしつつ、一人ひとりが「ばびるす」へ来て良かった・楽しかったと思える時間を提供できるように支援者間で相談し、試行錯誤しながら日々関わらせていただいています。

成長するお子様の育ちを支えると同時に、お子様の成長の土台となるご家族が苦しいとき、悩まれているときには、共に悩み、共に考え、少しでも支えになれるような事業所でありたいと思いますので、今後とも宜しくお願い致します。



「たんぼぼの放課後支援」

つばさ静岡 在宅支援課

統括主任 鈴木 崇之

たんぼぼは、児童発達支援と放課後等デイサービスを合わせて定員5名で行う重症心身障害児に特化したつばさ静岡の中の小さな事業所です。たんぼぼは、平成20年重症心身障害児者通園事業A型わたぐものグループとして幼児の受け入れを始めたのをきっかけに平成24年制度改正に合わせて、児童発達支援事業所たんぼぼとなりました。

放課後等デイサービスは、児童発達支援を卒業し、特別支援学校へ通学するようになった人工呼吸器を装着した児童がきっかけです。特別支援学校では、医療的なケアは特別支援学校の看護師が行っていますが、人工呼吸器については保護者の対応が求められ付き添いが必要で、朝も夜も含めて休みなく児童を介護・育児している保護者にとつて学校も付き添いとなるとより大きな負担となっていました。子供も親も離れる時間が全く無い生活です。人工呼吸器装着の児童を受け入れている放課後等デイサービスもありませんでした。そのような状況を少しでも改善したい。保護者に休息をとってほしい。子どもにも保護者と離れて過ごす時間がほしい。と、週2日たんぼぼの空きを利用して放課後等デイサービスをはじめました。

現在は、医療的なケアが生活に必要な児童を受けいれている放課後等デイサービスの事業所は、静岡市内も少しずつ増加してきていますが、まだ充足しているとは言えません。人工呼吸器装着以外にも医療的ケアがサービス利用のしにくさに繋がること少なくありません。地域のサービス資源の少なさを考え、人口呼吸器装着の児童に限らず、医療的ケアがある児童の受け入れも昨年度より少しずつ増やしています。

放課後の過ごし方は、1日学校で精一杯頑張ってきていることを考えて、穏やかな雰囲気や気持ちよく過ごせるように、本人とその家族が安定した日常生活が送れるようにを第一に考えながら、季節の行事や製作活動、野球や魚釣りなど様々な体験をして、無理なく楽しく学校で培ったことが維持できるように取り組んでいます。

医療的なケアを必要とする児童の放課後支援はまだまだ資源が足りません。たんぼぼは、児童発達支援との多機能ですので今後どのような体制をしていくべきか？地域のニーズを把握しながら重症心身障害児とその家族が安心した生活が送れるように検討し取り組んでいきたいです。



### 中央競馬馬主社会福祉財団から助成いただく

#### 支援センターわかぎ

平成 28 年度中央競馬馬主社会福祉財団から助成を受け、リフト付き 10 人乗り車両の購入をしました。

車両整備によって、車いす利用者がリフトで乗降できるようになり、外出等の機会に大活躍です。助成をいただきました中央競馬馬主社会福祉財団様には、紙面をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

◆購入品：日産キャラバン 10 人乗りリフト付き

◆総額：3,607,633円

助成額：2,110,000円

自己資金：1,497,633円

◆納車日：平成 28 年 10 月 3 日



### 創立50周年 小羊の歩み④

創立期を支えて下さった職員たち。多くの先輩方の努力があって、今の小羊学園があります。



### スクエア秋祭りのご案内

◆日時：平成 28 年 11 月 12 日 (土)  
12 時 30 分～ 15 時

◆会場：三方原スクエア  
浜松市北区三方原町 2709-12

◆催し物：吹奏楽・模擬店・太鼓演奏  
バザー・喫茶

○問い合わせ

三方原スクエア 担当：出水  
053 - 414 - 1833



### グループホームの土地を 探しています

障がいのある方の生活支援では、住居の整備が必要です。三方原スクエアや支援センターわかぎのよくな、入所施設の整備は国の方針で今後作らず、地域の中で小さな単位で暮らすグループホームを推進しています。小羊学園としては、グループホームの整備を検討していますが、土地の確保で躓いているのが現状です。施設整備の財源が入できるゆとりがありません。読者の方やお知り合いで、休閑地等を無償で貸与くださる方がおられましたら、ぜひご紹介下さい。

#### ・候補地

浜松市南区・北区・浜北区

#### ・土地条件

100坪～300坪程度

宅地／農地／雑種地問わず

隣接して6m道路

電線・水道管近くにあれば◎

#### ・貸与条件

可能であれば無償

貸与期間、固定資産税免除

建物借入金償還後に土地買い上げ交渉可能

#### ○窓口

小羊学園法人本部 稲松・福地

053・584・3337

### 編集後記

この時期は特別支援学校高等部の卒業後の進路先を決定する重要な時期。学生も保護者も、将来の活動場所としてふさわしい施設を探しているところだが、生活介護や就労継続支援B型事業所の受け皿に限界があるのは確か。今年度卒業生でも厳しいのに、今の高校2年生のころには、本当に切迫した現状になりそうだ。行政と事業所と地域が連携しつつ、社会資源を広めていかなければと思うこの頃だ。

近頃は秋の気配を実感できる爽やかな日々ですが、木枯らし吹くのも間近。どうぞ皆さまお身体ご自愛ください。

(F)

### 小羊学園を支える会

#### 2016年度 寄付金報告

9月 受付分 121,776円 (14件)  
累計 2,313,776円 (144件)

#### 小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785  
口座名義 社会福祉法人小羊学園  
ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785  
口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。

小羊学園を支える会事務局 (鈴木)  
小羊学園法人本部 ☎ 053-584-3337